

日本—ロシア—タイ 国際共同研究 「環境（自然と人間のシステムに関する気候変動の影響と解決策）」 2022 年度 年次報告書	
研究課題名（和文）	先住民族社会とそれを取り巻く生態系の気候変動下でのレジリエンスに関する研究
研究課題名（英文）	Climate change resilience of indigenous socio-ecological systems (RISE)
日本側研究代表者氏名	Jorge GARCIA MOLINOS
所属・役職	北海道大学・北極域研究センター・准教授
研究期間	2021 年 4 月 1 日 ~ 2024 年 3 月 31 日

1. 日本側の研究実施体制

氏名	所属機関・部局・役職	役割
Jorge GARCIA MOLINOS	北海道大学・北極域研究センター・准教授	研究代表者 (PI)
成田 大樹	東京大学・大学院総合文化研究科・教授	Work Package (WP) 1, 4, 5
山田 大地	広島大学・大学院人間社会科学研究科・准教授	WP 1, 4, 5
Félix Landry YUAN	北海道大学・北極域研究センター・博士研究員	WP 3, 4, 5
新保 有加	北海道大学・北極域研究センター	プロジェクト管理者（事務担当者）
Shokhrukh KHASANOV	北海道大学・大学院経済学研究院・助教	WP 1

2. 日本側研究チームの研究目標及び計画概要

- ロシアチームがヤクーツクで主催する年次プロジェクト会議への全プロジェクトメンバーの参加（2022 年 5 月）。
- 日本チームメンバーによる四半期ごとのミーティングを開催し、年間を通しての進捗を評価する（WP5）。
- 両ケーススタディにおいて、プロジェクトの社会経済的要素（WP1）および栄養的要

素（WP2）の現地調査を完了させる。タイで実施する社会経済的現地調査（世帯調査）については、日本チーム（成田）が指導・監督を行う（WP1）。

- 収集した社会経済データの一次分析を行い、調査対象コミュニティの社会経済的側面と伝統的食料システムに関する報告書を作成する（WP1）。
- 対象となる代表的な食物種を選定し、調査地域における現在および将来の分布を予測するための統計モデルを開発する（WP3）。
- 可能であれば、既存の研究データ（サハ族の事例）または地元協力者のチームによって収集されたデータ（カレン族の事例）を活用して、測定モデルを補完する（WP3）。
- 研究代表者がワークショップを主催し、ロシアとタイの関連プロジェクトメンバーおよび先住民コミュニティの代表者へ、モデルから得られた一次結果を説明する。将来の気候変動下での伝統的食料システムの変化を評価するため、研究結果の最善の活用方法について議論する（WP3）。
- プロジェクト会議、学会、フィールドワーク、研究滞在への参加を通じて、若手研究者のキャリア開発を支援する（WP5）。
- プロジェクトの共有データベースの定期的な管理と、その年に収集・生成されたデータの更新（WP5）。
- プロジェクトの活動や成果を一般に普及させるためのウェブサイトの定期的な管理（WP5）。
- 国内外の学会への参加と論文発表によるプロジェクト成果の普及（WP5）。

3. 日本側研究チームの実施概要

RISE プロジェクトの2年度目は、COVID-19 のパンデミックとロシアによるウクライナ侵略によって生じた海外渡航と研究協力に関する不確実性と制限に直面し続けた。しかし、このような制約の中で、プロジェクトは計画されたスケジュールに沿って、可能な限り前進することができた。

日本チームは、9月に北海道大学北極域研究センターでプロジェクト年次総会を開催した。3カ国のチームから合計16名のメンバーが対面参加した。会議では、各チームが現在進行中のデータ収集と予備的な分析結果について発表し、議論した。また、包摂的かつ参加型の研究アプローチに基づき、タイで調査中の2つのカレン族村落を代表する2名の先住民リーダーも会議に招待された。

日本チームは、12月にタイにおいて調査対象となっているカレン族の村落を訪問した。タイ人研究者や地元のカレン族の協力者とともに、今年収集した乾季の社会経済学的・生態学的フィールドワークの監督と修正を行った。また、この1年間、日本チームは、サハ共和国でのケーススタディのために、ロシアの共同研究者と作業を続けてきた。現在、プロジェクトの最初の2年間に収集された社会経済学的・生態学的データの分析を行っているが、その予備的な分析結果については国際会議において報告したところである。来年度にかけて最終結果を発表する予定である。

今年度は、第7回国際北極研究シンポジウム（東京・立川）と第13回国際生態学会議（スイス・ジュネーブ）の2つの国際会議で、プロジェクトの予備的成果を発表した。また、研究プロジェクトのプロトコルを説明した論文が、国際科学雑誌「PLOS ONE」（<https://doi.org/10.1371/journal.pone.0271792>）にオープンアクセス形態で発表された。

プロジェクトのウェブサイト（<https://jorgegmolinos.wixsite.com/rise>）は定期的に更新され、現在は3カ国語（英語、ロシア語およびタイ語）で利用可能である。プロジェクト、

チーム、研究成果に関する情報や、プロジェクト活動に関するブログ、またプロジェクトのオープンアクセス成果物が順次ダウンロードできるようになるデータポータルを提供している（要登録）。